

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「9年間で育てる子ども像と小中一貫して育てる力」(小中共通の学校教育目標)
 自ら学び、友達や社会とかわり合いながら、ともに新しい社会を創ろうとする子ども
 ○自ら学ぶ子ども【知】 主体的に考え、共に学び合う力
 ○心豊かな子ども【徳】 自他ともに尊重し、たくましく生きる力
 ○心身ともに健康な子ども【体】 自らの健康を保持増進しようとする力
 ○社会に参画する子ども【公】 社会の一員として、他者と協働する力
 ○変化する社会を生きる子ども【開】 広い視野をもち、未来に向けて挑戦する力

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

	具体化した資質・能力
◎主体的に考え、判断し、実践する力 ◎よりよい人間関係を進んで形成し、 社会創りに参画する力	自ら学ぶ子ども 心豊かな子ども 心身ともに健康な子ども 社会に参画する子ども 変化する社会を生きる子ども

中期取組目標

○義務教育9年間を見直し、急激に変化する時代に応じた「生きる力」を育む学校づくりを進めます。
 ・西前小学校との連携をさらに進め、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくりに取り組みます。
 ・人権教育を基盤とした、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指します。
 ・地域や社会とのつながりを深め、多様な人たちとの協働によって、社会に積極的にかかわろうとする姿勢を育てます。
 ・「個別最適な学び」を目指してきめ細かな指導・支援体制の整備を進め、学力の保障に努めます。
 ・ICT化をさらに進め、コミュニケーションを通じた協働的な学び、学習履歴の活用や業務の効率化を進めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学習活動を通じて得た知識や技能を、思考力・判断力・表現力をはたらかせながら問題を解決する力が身につくよう授業改善をしていく。 ②ICT端末の活用については、学習効果の側面を鑑みて、ICT端末を活用する場面を工夫し、意欲的に学び続ける力を育てていく。
担当	教科指導委員会

学力向上に関わる本校の状況
(1)学習の様子 授業に向かう姿勢はおおむね前向きで、話し合い活動においても自分の考えや意見を伝え合うことができる生徒が多い。ICT端末の使用については、小学校からの指導の継続で、使い慣れている様子がうかがえる。プレゼンテーションソフトを活用した発表活動にも慣れている。
(2)学力の側面 横浜市学習状況調査の結果から、各教科への学習意欲が横浜市の平均に比べて高い状況にあることが分かった。また、観点別の調査結果から、知識及び技能については、比較的横浜市の平均を上回っている設問が多い。思考・判断・表現では、知識及び技能に比べると、横浜市の平均を下回っている設問が多い。身につけた知識及び技能を活用して、思考力・判断力・表現力等を働かせることができるようになる必要がある。
(3)これまでの学校の取組状況 ・小中共通の目標立て ・学習支援の充実 (5教科におけるTT、特別支援教室の利用など) ・ICT機器の導入・活用

今年度の目標				
一人ひとりの学習状況に合わせて主体的に学習が進められるような授業や、 資質・能力の三つの柱が関連し合いながら育成させる授業づくりを目指す				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・西中タイムでは、教材を工夫し、生徒の自律的な学習を通して知識や技能を習得できるようにする。 ・話し合い活動や発表など、生徒同士での学び合いを通じて思考力・判断力・表現力がはたらかせるような問題や課題を提示する。 ・一人一台端末を効果的に活用し、主体的に学習に取り組むことができる機会を設ける。 ・一人ひとりの学習状況を把握し、個別に支援が必要な生徒へ適切な学習支援を行う。 </td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td></td> </tr> </table>	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・西中タイムでは、教材を工夫し、生徒の自律的な学習を通して知識や技能を習得できるようにする。 ・話し合い活動や発表など、生徒同士での学び合いを通じて思考力・判断力・表現力がはたらかせるような問題や課題を提示する。 ・一人一台端末を効果的に活用し、主体的に学習に取り組むことができる機会を設ける。 ・一人ひとりの学習状況を把握し、個別に支援が必要な生徒へ適切な学習支援を行う。 	下半期	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・西中タイムでは、教材を工夫し、生徒の自律的な学習を通して知識や技能を習得できるようにする。 ・話し合い活動や発表など、生徒同士での学び合いを通じて思考力・判断力・表現力がはたらかせるような問題や課題を提示する。 ・一人一台端末を効果的に活用し、主体的に学習に取り組むことができる機会を設ける。 ・一人ひとりの学習状況を把握し、個別に支援が必要な生徒へ適切な学習支援を行う。 			
下半期				

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①道徳教材や学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲などの道徳性を養っていく。 ②生徒の自尊感情が育まれるように、活動の場(行事等)を工夫し、YPアセスメント等の活用で、観察や教育相談等できつくりあげていく。
担当	人権教育・道徳

豊かな心に関わる本校の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・幼小小中間の連携を密にとっており、つながりが強い。 ・地域住民も学校に対して協力的である。 ・明るく人に接する生徒や自己肯定感が強い生徒が多い。 ・粘り強さや慎重さに課題があり、周りに流されやすい。また、善悪の判断を自分で下す力や自主的に活動する力がやや弱い。

今年度の目標				
活動の場(行事等)の工夫、YPアセスメントや日々の教育相談等の活用、観察の観察による声掛けにより、生徒の自尊感情を育む。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・次にあげるような視点をもって、道徳授業の資料・題材の収集や研究を行う。(生徒一人ひとりの心に響く資料、今日的な課題について深く考えることができる題材、学級や学校生活の日常における葛藤などについて深く考えることができる題材、学校行事のねらいに即した題材) ・平和学習や人権作文を通して人権意識の向上を図る。 </td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td></td> </tr> </table>	上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・次にあげるような視点をもって、道徳授業の資料・題材の収集や研究を行う。(生徒一人ひとりの心に響く資料、今日的な課題について深く考えることができる題材、学級や学校生活の日常における葛藤などについて深く考えることができる題材、学校行事のねらいに即した題材) ・平和学習や人権作文を通して人権意識の向上を図る。 	下半期	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・次にあげるような視点をもって、道徳授業の資料・題材の収集や研究を行う。(生徒一人ひとりの心に響く資料、今日的な課題について深く考えることができる題材、学級や学校生活の日常における葛藤などについて深く考えることができる題材、学校行事のねらいに即した題材) ・平和学習や人権作文を通して人権意識の向上を図る。 			
下半期				

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体・食育	①教科指導等を通じ、一人ひとりが健康に必要な生活習慣を自ら課題を見つけ、取り組める態度を育てる。 ②学校だよりや保健だより、食の指導、委員会活動を通じて、食の意識改革を図り、生徒・保護者に食に関する情報を発信する。 ③学校給食を題材に生徒が自分が食べる給食に興味や関心を持ち、栄養について学ぶことができる機会を作っていく。
担当	保健体育・保健安全指導部

健やかな体に関わる本校の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均に比べ、朝食の摂取率はやや高い。昼食に関しては、ここ数年学校給食も増えてきた。 ・運動部に所属は、60%近くいるが、塾に通っている生徒も多く、放課後の自分の時間が少ない。 ・そのため、よく体を動かさず生徒と、そうでない生徒との二極化が顕著に表れている。 ・保健室の利用状況(傷病の状況)は、比較的少ないが、様々な悩みから来室する生徒もおり、養護教諭や専任教諭・学年職員と連携し、対応している。 ・過去数年の新体力テストの全国平均と比較して、体格的には必要。特に健康な生活に結びつく全身持久力を示す持久走の数値については学年が上がるにつれ、上昇しているが、全国、県、市全体より下回っていることがデータからみられる。改善方法としては、継続的な本校生徒に合った運動の工夫が必要と考えられる。 ・保健体育科の授業において、継続的にトレーニングドリル(ランニング・筋力トレーニング)を組んでいる。 ・体育的行事を委員会や係(生徒)が企画・運営し、内容と取組の充実を図り、運動の楽しさを味わえ、体力の向上を図る。 (行事例)体育祭、球技大会、学校・学年レク等

今年度の目標				
健康な体を保つために必要な知識や態度を育てる。また健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る。				
目標を実現するための具体的行動プラン				
<table border="1"> <tr> <th>上半期</th> <td> <ul style="list-style-type: none"> 《保健体育科での取組》 ・保健体育科では、体力づくり運動の利用域において「運動能力の向上」を目標とし、特に持久力や筋力を授業の始めにトレーニングドリルとして組み込み向上に努めます。 《他教科での取組》 ・家庭科では、食教育との関連を図り、食生活や朝食の大切さ、栄養について学習を深めます。 ・体育祭では、授業で培った資質能力をさらに発展させ、向上した体力の発表の場とします。 ・学校保健委員会では、生徒の健康面についての調査を行い、そこから挙げられた課題を保健美化委員(生徒)が、学校全体に発信し健康への意識を高めるようにします。 </td> </tr> <tr> <th>下半期</th> <td></td> </tr> </table>	上半期	<ul style="list-style-type: none"> 《保健体育科での取組》 ・保健体育科では、体力づくり運動の利用域において「運動能力の向上」を目標とし、特に持久力や筋力を授業の始めにトレーニングドリルとして組み込み向上に努めます。 《他教科での取組》 ・家庭科では、食教育との関連を図り、食生活や朝食の大切さ、栄養について学習を深めます。 ・体育祭では、授業で培った資質能力をさらに発展させ、向上した体力の発表の場とします。 ・学校保健委員会では、生徒の健康面についての調査を行い、そこから挙げられた課題を保健美化委員(生徒)が、学校全体に発信し健康への意識を高めるようにします。 	下半期	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> 《保健体育科での取組》 ・保健体育科では、体力づくり運動の利用域において「運動能力の向上」を目標とし、特に持久力や筋力を授業の始めにトレーニングドリルとして組み込み向上に努めます。 《他教科での取組》 ・家庭科では、食教育との関連を図り、食生活や朝食の大切さ、栄養について学習を深めます。 ・体育祭では、授業で培った資質能力をさらに発展させ、向上した体力の発表の場とします。 ・学校保健委員会では、生徒の健康面についての調査を行い、そこから挙げられた課題を保健美化委員(生徒)が、学校全体に発信し健康への意識を高めるようにします。 			
下半期				